

2008年 第1回日本統合医療学会 (IMJ)

乳酸菌の混合培養により得られた発酵産物（生源[®]）の歯科治療時のストレス軽減に及ぼす作用について～唾液アミラーゼによるストレス判定を通じて～

○小野田繁、関口守衛 a、新良一 b、三浦竜介 c；小野田歯科医院、a ドイツ文化会館・赤坂関口クリニック、

b エイ・エル・エイ、c ディー・シー・エス

歯科治療に伴う患者の痛みを除き、処置を安全かつ確実に可能にする為の局所麻酔は日常的に行われるものである。しかし術前の不安感や緊張感が重なり、そのうえ麻酔の行為自体がストレスとなると血圧上昇を惹起し、時として偶発症を招くことがある。昨年、乳酸菌の混合培養で得られた発酵産物（以下生源）にストレス軽減作用が認められ、口腔内の不定愁訴が治癒した一例を報告したが、今回も唾液アミラーゼモニター（COCORO メーター）を使用し生源の局所麻酔使用時のストレス軽減作用について比較検討を行った。

【方法】

口腔内の処置歯が少なく絶対的に麻酔経験が少ないと思われ、かつ同顎の両側に同様の処置が必要な被験者（n = 4）を選び、趣旨を説明し了解を得た後コントロールとして生源の投与をせずに術前1週間前、麻酔直前、麻酔直後、麻酔5分後、処置終了後のそれぞれの血圧、脈拍、ストレス度の測定を行った。次に処置後2～3週間以上間隔をあげ、反対側歯牙の同様処置の際に、生源を術前1週間前より1日9.0 g（6本）の投与を行い、それぞれを計測し生源投与の無い前回と比較した。

【結果】

コントロールにおいては、血圧・脈拍・唾液アミラーゼ活性の変化が大きく見られ、いずれも麻酔直前から麻酔直後にかけてピークとなり順次それらが減少することが分かった。生源の服用ではいずれにおいても変化量が減少し、特に高血圧患者においてはそれが顕著であった。

【考察】

歯科局所麻酔により不安・緊張が煽られることは、誰しも経験があるものである。コントロールにおいてすべてストレス度が大きく上昇したことから明らかである。しかし生源の服用により、ストレス度が大きく変化せず前回の処置と比較し明らかにストレス度が減少したことから、生源がストレス軽減に関与したと思われる。また血圧を一定に保つ作用もあると思われる。

【結論】

生源はストレスを軽減させる可能性があることが示唆された。